

1 都市の将来像

都市計画マスタープランの将来都市像については、都市づくりの課題等を踏まえ、協働のまちづくりの基
本としつつ、持続可能な市の発展を目指し、次のように設定します。

第2章 全体構想

1 都市の将来像

都市計画マスタープランの将来都市像については、第5次泉南市総合計画の「まちの将来
像」に即して設定します。

（1）まちづくりの視点

○ 主体的で独自性豊かなまちづくり

経済や国際・国内社会の動向などの社会環境の変化を注視しながら「泉南市」という地
域をしっかりとみつめ、本市に関わるすべての人びとの創意と工夫を反映した独自性豊か
なまちづくりを進めていきます。

○ みんなで公共を担うまちづくり

市民と行政がそれぞれの役割と責務を認識・尊重し、積極的に協働するなど、真に対等
な関係のもとでみんなで「公共」を創造するまちづくりを推し進めていきます。

○ 地域資源の力を引き出すまちづくり

本市に住む人・働く人・学ぶ人などの「人財」をはじめとして、自然・風土、歴史・文
化、各種施設など、足元の地域資源の力を見極めて十分に引き出し、これらを有機的に結
びつけて効果的にまちづくりを進めていきます。

（2）将来都市像

「第4次泉南市総合計画」では、関西国際空港のあるまちとして、また、これまでに
蓄積してきたさまざまなまちの資源や個性、自然環境を活かしながら、地方分権時代に
ふさわしい自立と責任を基本として、市民自らが地域を創造していくという思いのもと、
めざすべき将来像を「水・緑・夢あふれる生活創造都市 泉南」としてその実現に努めて
きました。

これまでも、市民と行政による協働のまちづくりは、さまざまな取り組みを生み出
し、新たなまちづくりの担い手が徐々にではありますが、着実に育ってきています。

2011 年（平成 23 年）の「地方分権一括法」の施行など、地方分権社会の進展と
ともに国や大阪府からの権限移譲が進んでおり、これからは、地方分権時代にふさわし
い主体的で独自性豊かなまちづくりを進めることが必要です。

そして、進展する少子高齢社会への対応、安全・安心なまちづくりといった社会潮流
や時代の要請に即応しながら、行政はもとより、市民、地域コミュニティ、企業等、み
んなが公共を担うことで、豊かな自然環境を大切にしながら、子どもから高齢者まで、
一人ひとりの市民が、お互いを思いやる気持ちをもって、このまちに住み続けることの
できる魅力あるまちづくりが重要です。

以上のことから、これまでめざしてきた将来像である「水・緑・夢あふれる生活創造
都市 泉南」を継承しつつ、人と人とのつながりに一層注力する本市の将来像を次のとお
り定めます。

豊かな環境・支えあい、人を大切にする泉南市

～みんなで夢を紡ぐ^{つむ}生活創造都市～

【都市の将来像】_新旧対照表	
新	現行計画
<p>(1) 都市づくりの基本目標</p> <p>1) 都市づくりの基本的な考え方</p> <p>本市の人口は、転出超過が続いており、平成 22（2010）年には初めて減少に転じ、<u>その後減少傾向は加速化しています。</u></p> <p>このような状況下で、これからもまちの活力や<u>にぎわいを維持</u>・創出していくためには、とりわけ生産力及び担税力のある<u>生産年齢人口の減少を緩やかにし、定住人口の維持</u>に努めていくことが肝要です。</p> <p>このような認識のもと、定住化を促進するためには、本市の豊かな独自性を発揮した都市づくり、市民協働による身近な地域づくり、地域資源を活かした活力あるまちづくりの展開に取り組む必要があります。</p> <p>このため、本市においては、将来都市像を実現していくため、次のような基本目標を設定します。</p> <p>2) 都市づくりの目標</p> <p>①<u>泉南市らしい魅力ある都市づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり 本市の魅力である水と花とみどり豊かな自然環境を守り育てるとともに、環境への負荷を低減する<u>など、脱炭素に資する</u>都市づくりを目指します。 <u>熊野街道や海会寺跡等の</u>地域資源を活かした都市づくり 本市の風土に培われた<u>熊野街道等の旧街道や海会寺跡等の歴史的資源</u>を活かした個性豊かな都市づくりを目指します。 泉南市らしい景観を創造する都市づくり 自然景観や歴史景観をはじめ、これらと調和した市街地景観の形成など、「泉南市らしさ」を醸し出す魅力のある景観の都市づくりを目指します。 <p>②<u>定住性の高い安心・快適な都市づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>公共交通や徒歩等で</u>移動がしやすい都市づくり 市民の協力を得ながら、安全で快適な<u>幹線道路や</u>生活道路等を確保し、市民を支える公共交通の利便性を高めるなど、公共交通や徒歩・自転車等で誰もが移動のしやすい都市づくりを目指します。 質の高い生活環境が確保された都市づくり 地域の意見等を反映しながら、公園、下水道などの生活基盤施設を確保するなど、質の高い生活環境が確保された都市づくりを目指します。 安全に暮らせる都市づくり 災害や犯罪の防止につながる地域力を高めるとともに、防災・犯罪対策を推進し、市民が安全に暮らせる都市づくりを目指します。 <p>③<u>地域の活性化に向けた持続可能な都市づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>にぎわいのある持続可能な都市づくり</u> 南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅の<u>中心拠点</u>における多様な都市機能の集積・強化とともに、<u>南海岡田浦駅周辺と JR 新家駅周辺</u>の地域拠点における<u>日常の生活利便機能等の強化</u>など、便利でにぎわいのある都市づくりを目指します。また、市役所周辺の多機能複合拠点における商業業務や行政 	<p>(3) 都市づくりの基本目標</p> <p>1) 都市づくりの基本的な考え方</p> <p>近年、本市の人口は転出超過が続いており、平成 22 年には初めて人口が減少し、今後、減少傾向が続くものと想定されています。このような状況下で、これからもまちの活力を維持し、にぎわいを創出していくためには、定住人口、とりわけ生産力及び担税力のある生産年齢人口を維持・増加していくことが肝要です。</p> <p>このような認識のもと、定住化を促進するためには、本市の豊かな独自性を発揮した都市づくり、市民協働による身近な地域づくり、地域資源を活かした活力あるまちづくりの展開に取り組む必要があります。</p> <p>このため、本市においては、将来都市像を実現していくため、以下のような基本目標を設定します。</p> <p>2) 都市づくりの目標</p> <p>①<u>独自性豊かな泉南市らしい魅力ある都市づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり <ul style="list-style-type: none"> 本市の魅力である水と花とみどり豊かな自然環境を守り育てるとともに、こうした環境との調和や環境への負荷を低減する低炭素な都市づくりを目指します。 歴史文化資源を活かした歴史性豊かな都市づくり <ul style="list-style-type: none"> 本市の風土に培われた神社仏閣や旧街道などの歴史性を活かした個性豊かな都市づくりを目指します。 「泉南市」らしい景観を創造する都市づくり <ul style="list-style-type: none"> 自然景観や歴史景観をはじめ、これらと調和した市街地景観の形成など、「泉南市らしさ」を醸し出す魅力のある景観の都市づくりを目指します。 <p>②<u>市民協働による定住性の高い都市づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 徒歩や自転車で移動がしやすい都市づくり <ul style="list-style-type: none"> 市民の協力を得ながら、安全で快適な生活道路等を確保するとともに、市民を支える公共交通の利便性を高めるなど、公共交通や徒歩、自転車等で誰もが移動のしやすい都市づくりを目指します。 質の高い生活環境が確保された都市づくり <ul style="list-style-type: none"> 地域の意見等を反映しながら、公園、下水道などの生活基盤施設を確保するなど、質の高い生活環境が確保された都市づくりを目指します。 安全に暮らせる都市づくり <ul style="list-style-type: none"> 災害や犯罪の防止につながる地域力を高めるとともに、防災・犯罪対策を推進し、市民が安全に暮らせる都市づくりを目指します。 <p>③<u>地域資源を活用した活力のある都市づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 便利でにぎわいのある都市づくり <ul style="list-style-type: none"> JR 和泉砂川駅周辺、南海樽井駅周辺の都市核における多様な都市機能の集積・強化

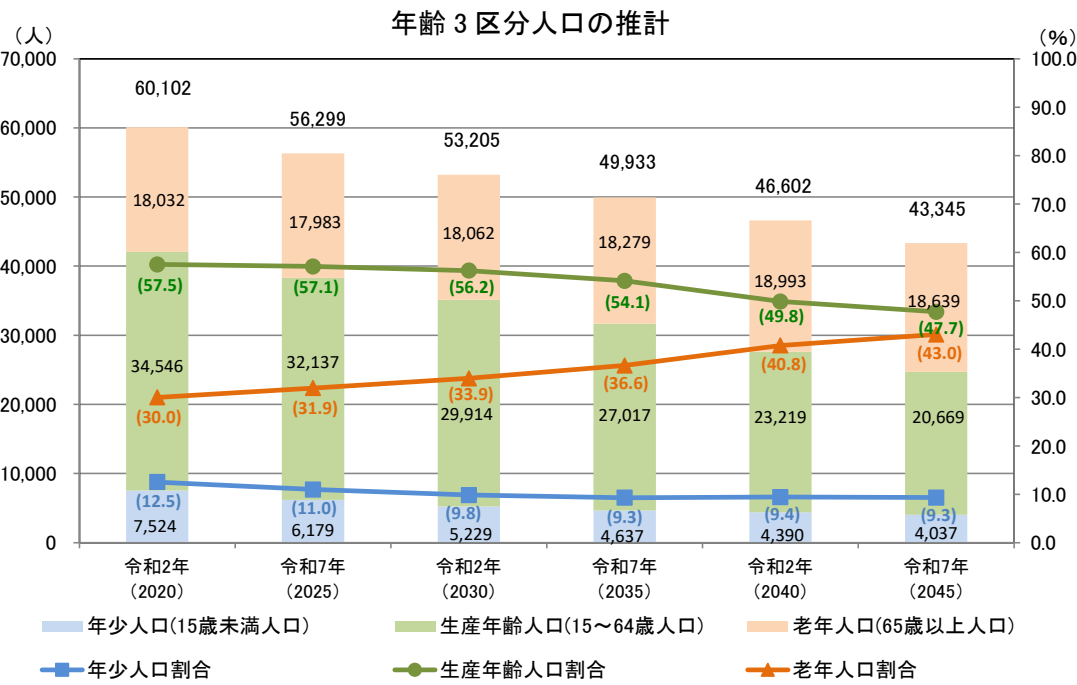
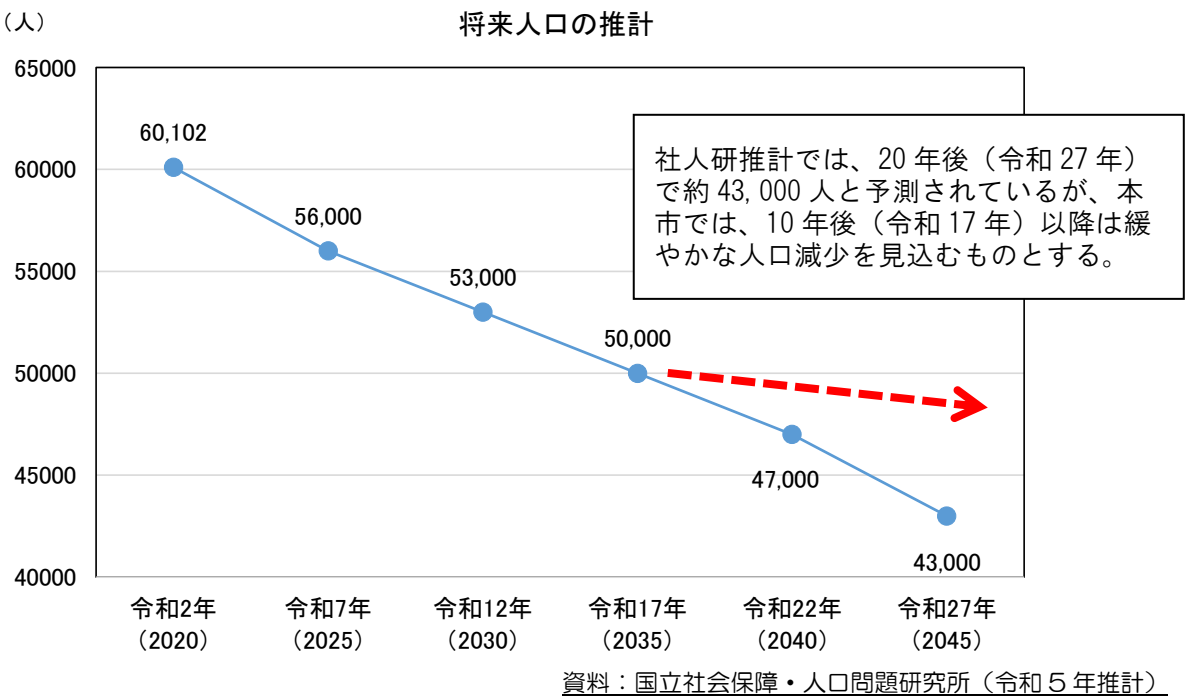
【都市の将来像】新旧対照表

新	現行計画
<p>サービス機能等の都市機能の集積を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり <p>りんくうタウンにおける産業基盤の確保や市街地内における住環境と操業環境の共存等により、地域経済の安定と定住化を促す産業が発展する都市づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域の特性を活かした都市づくり <p><u>農業・漁業の振興を図るとともに、市街化調整区域において、広域幹線道路等の沿道機能や交通結節機能を活用し、交流や産業機能を高めていくなど、人やモノの交流が豊かな都市づくりを目指します。</u></p> <p>④公民連携・広域連携の都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉南市に関わる市民等や事業者等の多様な主体が、それぞれの役割と責務を認識・尊重しながら、都市づくりに取り組むとともに、日常生活圏の拡大や観光・交流の広域化に対応した周辺市町との連携など、公民連携・広域連携の都市づくりを目指します。 <p>■都市の将来像と都市づくりの目標の体系</p> <p>まちがつながる 人がつながる にぎわいがひろがる 泉南(案) まちがつながる にぎわいがひろがる みんなでつくる 泉南(案)</p> <p>①泉南市らしい魅力ある都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり ・熊野街道等の地域資源を活かした都市づくり ・泉南市らしい景観を創造する都市づくり <p>②定住性の高い安心・快適な都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通や徒歩等で移動がしやすい都市づくり ・質の高い生活環境が確保された都市づくり ・安全に暮らせる都市づくり <p>③地域の活性化に向けた持続可能な都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいのある持続可能な都市づくり ・地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり ・市街化調整区域の特性を活かした都市づくり <p>④公民連携による都市づくり</p>	<p>とともに、地域核における生活利便機能等の強化など、便利でにぎわいのある都市づくりを目指します。</p> <p>○地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんくうタウンにおける産業基盤の確保や市街地内における住環境と操業環境の共存等により、地域経済の安定と定住化を促す産業が発展する都市づくりを目指します。 <p>○沿道機能を活かした交流豊かな都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域を含め、広域幹線道路等の沿道機能や交通結節機能を活用し、交流や産業機能を高めていくなど、人やモノの交流が豊かな都市づくりを目指します。 <p>■都市づくりの目標の体系</p> <p>豊かな環境・支えあい、人を大切にする泉南市 ～みんなで夢を紡ぐ生活創造都市～</p> <p>①独自性豊かな泉南市らしい魅力ある都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 豊かな自然と調和した環境にやさしい都市づくり ◇ 歴史文化資源を活かした歴史性豊かな都市づくり ◇ 泉南市らしい景観を創造する都市づくり <p>②市民協働による定住性の高い都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 徒歩や自転車で移動がしやすい都市づくり ◇ 質の高い生活環境が確保された都市づくり ◇ 安全に暮らせる都市づくり <p>③地域資源を活用した活力のある都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 便利でにぎわいのある都市づくり ◇ 地域経済や定住化を支える産業が発展する都市づくり ◇ 沿道機能を活かした交流豊かな都市づくり

(2) 将来人口の推計

将来人口の推計は、国立社会保障・人口問題研究所による推計人口（令和 5（2023）年推計）に基づき、令和 17（2035）年で約 50,000 人と予測されています。

今後は、各種まちづくり施策・事業の展開により、推計人口の維持に努めるものとします。また、市内で働く機会を増やすとともに、観光・交流機能の充実などによって更なる交流人口・関係人口を生み出し、多様な人びとでにぎわう活力ある泉南市を創造していきます。



(4) 将来目標人口

将来目標人口は第5次総合計画に即し、常住人口の将来目標人口を設定するとともに、活力ある都市づくりを展開していくため、交流人口を生み出していくものとします。

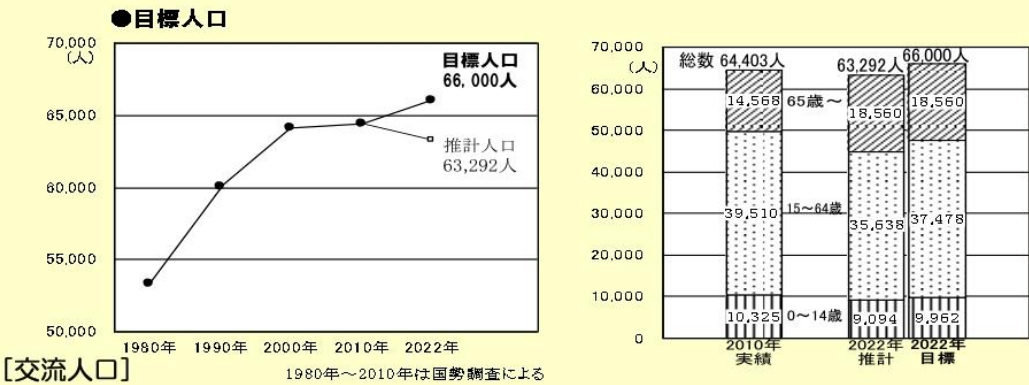
【常住人口】

本市の人口は近年横ばい傾向を示しており、これを前提とした推計によると将来的には、目標年次の人口は 63,292 人と予測されます。

「市民意識調査」によると、定住意向をたずねた項目において、男性 29 歳以下と女性 30 歳代、40 歳代は「ずっと住みたい」または「できれば住みたい」と回答した割合は 50%を下回っていました。

しかし、市民のニーズと市の課題を踏まえ、子育て支援策の充実、生活環境の質の向上、良好な住宅地の維持・更新、人と人とのつながりや支えあいを強めることなどを推し進め、市の魅力を高めることによって、ピーク時の人口（2006 年（平成 18 年）住民基本台帳人口および外国人登録者数）を維持できるよう、目標年次における目標人口を 66,000 人とします。

■常住人口の将来目標人口



【交流人口】

働く市民の数は増えていますが、その増加分の多くは市外に職を求めており、市内で働く市民は横ばい傾向になっています。市内で働く市民と市外から働きにやってくる人の合計も近年は低下傾向になっています。

また、本市のさまざまな観光資源を目的に、シーズンごとに多数の観光客が訪れるほか、複合商業施設にも日々相当数の人びとが来訪しています。

今後は地元で働く機会を増やすとともに、観光機能の充実などによってさらなる交流人口を生み出し、多様な人びとでにぎわう活力ある泉南市を創造していきます。

※常住人口[住民基本台帳人口（外国人含む）]の状況（各年 10 月 1 日現在）

1966 年	1974 年	1982 年	1990 年	1998 年	2006 年	2014 年
35,924 人	45,935 人	55,615 人	60,654 人	64,327 人	66,077 人	64,116 人

【都市の将来像】_新旧対照表

新	現行計画
---	------

(3) 将来都市構造

1) 基本的考え方

都市近郊の農地や歴史的資源等、地域の資源を保全・活用しながら、4つの鉄道駅や市役所周辺等を拠点として公共施設等の最適化を図り、都市機能や居住を誘導するとともに、自然環境と多様な都市機能が調和した土地利用により、利便性の高いコンパクトな都市構造を形成します。

また、山麓部においては、将来にわたり持続的に集落で生活できるよう小さな拠点を形成することにより、持続可能な連携型集約都市「住まう・楽しむ・働く」の実現を目指します。

- 拠点については、地域の既存ストックなどを活かし、多様な都市機能の集積・強化を図ります。
- 既存の道路や公共交通により拠点を有機的に連携し、一体的に機能する交通ネットワークを形成します。
- 都市近郊の農地を保全・活用し、生産や防災、景観などみどりが有する様々な機能と都市機能との共生を図ります。
- 歴史的資源を保全・活用し、個性と魅力ある都市環境を形成します。
- 民間投資を重要な手段と位置づけ、民間活力の活用など、行政と企業、大学等が協働で市民サービスの提供も行う公民連携のまちづくりを推進し、持続的な都市の活性化を図ります。
- 「コンパクトシティ・プラスネットワーク」の観点から、立地適正化計画の策定及び都市再生整備計画に係る事業の活用に努めます。

※コンパクトシティ・プラス・ネットワーク：人口減少・高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること。

※都市再生整備計画に係る事業：「立地適正化計画」に基づき、市町村や民間事業者等が行う一定期間内の都市機能や居住環境の向上に資する公共施設の誘導・整備、防災力強化の取組等に対し集中的な支援を行い、各都市が持続可能で強靱な都市構造へ再編を図ることを目的とする事業。都市再生整備計画に係る事業への支援措置として「都市再生整備計画事業（社会資本整備総合交付金）」と「立地適正化計画」に基づく事業に対して集中的な支援を行う「都市構造再編集中支援事業(個別支援制度)」等がある。

※立地適正化計画：都市再生特別措置法の改正（平成 26 年8月）により人口の急激な減少と高齢化を背景として、新たに創設された制度。市町村が立地適正化計画を策定し、居住誘導区域及び都市機能誘導区域、防災指針等を定めることで、住宅及び都市機能増進施設の立地の適正化を図り、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりを促進するもの。

(5) 将来都市構造

1) 基本的考え方

本市の持続可能な発展に向け、農やみどりとの共生の下で、地域活性化に資する民間の適切な土地利用も重視しながら、中心都市軸上に二つの都市核と多機能複合拠点の機能集積を図っていくとともに、その外縁部にその他の機能を有する核・拠点を配置し、これらを公共交通等で有機的にネットワークする「連携型集約都市構造」の実現を目指します。

- 核・拠点については、地域の既存ストックなどを活かし、多様な都市機能の集積・強化を図ります。
- 既存の道路や公共交通により、核・拠点を有機的に連携し、一体的に機能する交通ネットワークを形成します。
- 都市近郊の農地を保全・活用し、生産や防災、景観などみどりが有する様々な機能と都市機能との共生を図ります。
- 歴史的資源の保全・活用や水と花とみどりのネットワーク化（「花笑み・泉南プロジェクト」）等により、個性と魅力ある都市環境を形成します。
- 民間投資を重要な手段と位置づけ、民間活力も活かした持続的な都市の活性化を図ります。
- 「コンパクトシティ・プラスネットワーク」の観点から、立地適正化計画の策定を検討します。
- ※コンパクトシティ・プラスネットワーク：人口減少・高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること。

【都市の将来像】_新旧対照表

新	現行計画
---	------

2) 将来都市構造の形成方針

区分		方針
拠点	中心拠点	・南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺は、それぞれ海側と山側の玄関口として、交通結節機能の強化や広域的な商業業務機能等の集積を促進し、 <u>地域的な拠点機能を含む中心拠点を形成します。</u>
	地域拠点	・南海岡田浦駅周辺と JR 新家駅周辺は、日常の生活利便機能等が集積する地域拠点を形成します。
	多機能複合拠点	・南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺の中心拠点を結ぶ中心都市軸上は、公共施設や福祉施設、スポーツ施設など、 <u>商業業務を含む行政サービスを中心とした都市機能</u> が集積する多機能複合拠点を形成します。
	交流・レクリエーション拠点	・ <u>海側のりんくう公園（SENNAN LONG PARK）、サザンビーチ、サザンスタジアム、せんなんわくわく広場、岡田漁港周辺について、にぎわいのある交流・レクリエーション拠点機能の維持・向上を図ります。</u> また、 <u>山側の農業公園、金熊寺梅林、紀泉わいわい村等における憩いや娯楽、スポーツ、野外活動などを通じて人びとの交流を促進し、海側のにぎわいを山側につなげていきます。</u>
	産業拠点	・りんくうタウン南・中地区は、産業の活性化と雇用機会の創出など、産業機能が集積する産業拠点としての役割を確保します。 ・りんくうタウン内では、公園・緑地の整備など産業集積地区にふさわしい美しく快適な環境を維持し、 <u>にぎわいの維持・向上を図ります。</u>
	郊外型産業拠点	・阪和自動車道泉南 IC 周辺は、広域交通基盤の優れた交通アクセス機能を活かした郊外型産業拠点を形成します。

区分		方針
軸	中心都市軸	・ <u>関西国際空港、JR 和泉砂川駅周辺及び南海樽井駅周辺の中心拠点、市役所周辺の多機能複合拠点を結ぶ骨格軸として、海側と山側のアクセス性の向上や快適な道路空間等を創出するなど、にぎわいとうるおいのある中心都市軸を形成します。</u>
	広域交流軸	・（都）泉佐野田尻泉南線、（都）樽井男里線、（都）泉南岩出線及び（都）第二阪和国道、阪和自動車道は、沿道のポテンシャルを活用し、都市間を結ぶ広域的な交流の活性化に寄与する広域交流軸を形成します。 ・（都）泉南岩出線沿道では、地域の産業、経済、文化の発展に欠くことのできない重要な路線として、沿道土地利用の活用による地域の活力向上を促進します。 ・（都）第二阪和国道沿道は、生活利便性の向上に資する土地利用を誘導するため、道路空間の再編を検討します。
	歴史文化軸	・府道和歌山貝塚線（熊野街道（紀州街道））沿道は、地域に誇りと愛着を感じ、来訪者との交流を生む歴史文化軸を形成します。

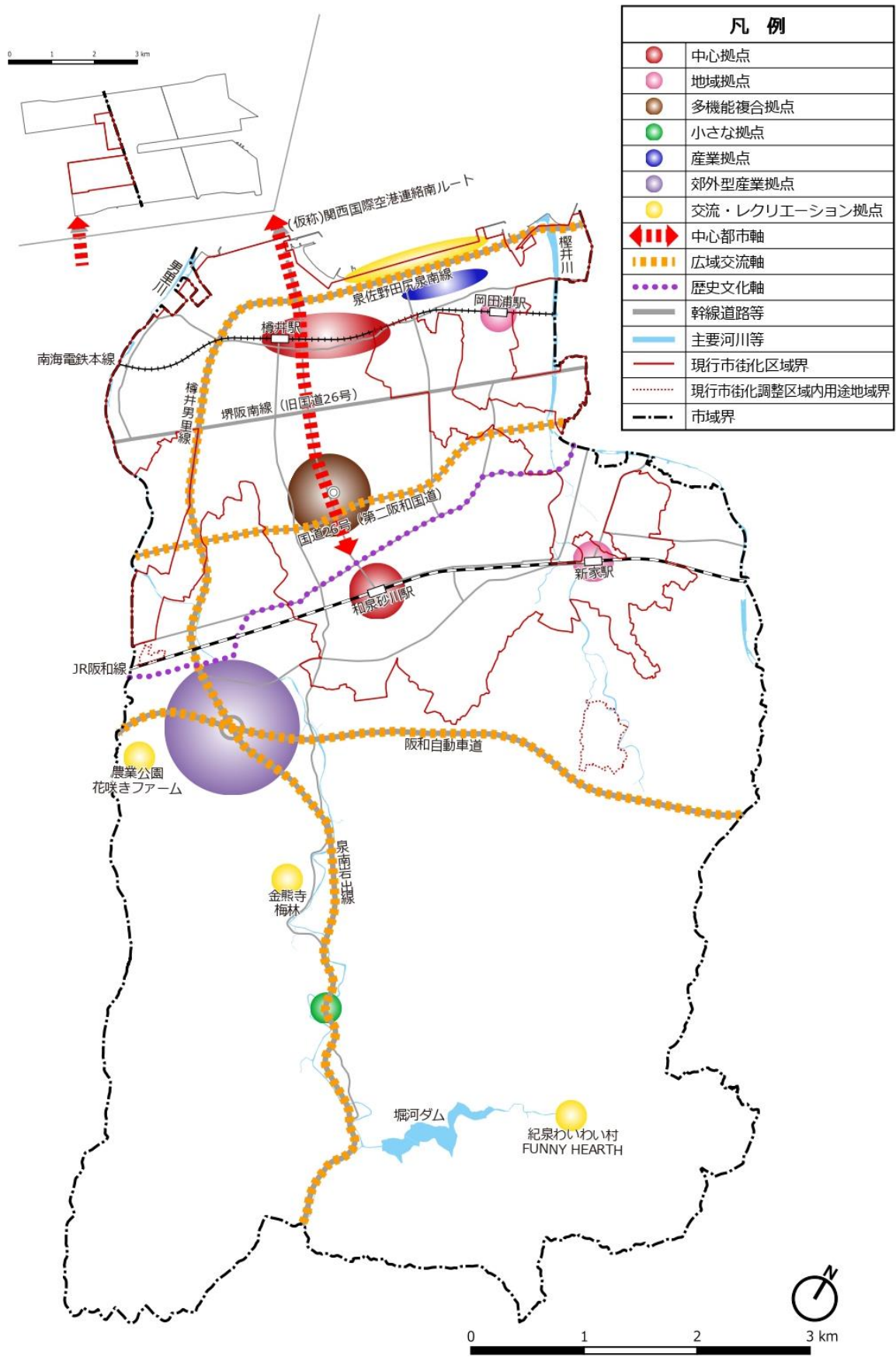
※（都）：都市計画道路の略

2) 将来都市構造の形成方針

区分		方針
核・拠点	都市核	・南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺は、それぞれ海側と山側の玄関口として、交通結節機能の強化や広域的な商業業務機能等が集積する都市核を形成します。
	地域核	・南海岡田浦駅周辺と JR 新家駅周辺は、日常の生活利便機能等が集積する地域核を形成します。
	多機能複合拠点	・南海樽井駅周辺と JR 和泉砂川駅周辺の都市核を結ぶ中心都市軸上は、公共施設や福祉施設、スポーツ施設など、行政サービスを中心とした都市機能が集積する多機能複合拠点を形成します。
	交流・レクリエーション拠点	・海浜部のサザンビーチ、サザンスタジアム、りんくう公園、せんなんわくわく広場、岡田漁港周辺をはじめ、山間部の農業公園、金熊寺梅林、紀泉わいわい村等は、憩いや娯楽、スポーツ、野外活動などを通じて人びとの交流を図り、 <u>にぎわいのある交流・レクリエーション拠点を形成します。</u>
	産業拠点	・りんくうタウン南・中地区は、産業の活性化と雇用機会の創出など、産業機能が集積する産業拠点としての役割を確保します。 ・りんくうタウン内では、公園・緑地の整備など産業集積地区にふさわしい美しく快適な環境の整備を進め、にぎわいを創出します。
	郊外型産業拠点	・阪和自動車道泉南 IC 周辺は、広域交通基盤の優れた交通アクセス機能を活かした郊外型産業拠点を形成します。

区分		方針
軸	中心都市軸	・JR 和泉砂川駅～市役所～南海樽井駅周辺及び関西国際空港に至る都市軸は、本市を代表するシンボル軸として、沿道商業業務機能の誘導、沿道公共施設におけるうるおいのある空間づくり、空港のもつ優れた機能を最大限に発揮する中心都市軸を形成します。
	広域交流軸	・（都）泉佐野田尻泉南線、（都）樽井男里線、（都）泉南岩出線及び（都）第二阪和国道は、沿道のポテンシャルを活用し、都市間を結ぶ広域的な交流の活性化に寄与する広域交流軸を形成します。 ・（都）泉南岩出線沿道では、地域の産業、経済、文化の発展に欠くことのできない重要な路線として、沿道土地利用の活用による地域の活力向上を促進します。 ・（都）第二阪和国道沿道は、生活利便性の向上に資する土地利用を誘導するため、道路空間の再編を検討します。
	歴史文化軸	・府道和歌山貝塚線（熊野街道（紀州街道））沿道は、地域に誇りと愛着を感じ、来訪者との交流を生む歴史文化軸を形成します。

※（都）：都市計画道路の略



【将来都市構造図】

